Health Promoting Hospital

当院は、HPH（健康推進活動拠点病院）として、
京都中・右京健康友の会と一緒に地域の健康づくりに
取り組んでいます。シリーズで取り組みを紹介します。

京都民医連ジェンダー学習会を開催しました

京都民医連中央病院 組織課　都築（つづき） 浩志（ひろし）

70年にわたり「無差別・平等」の理念を貫いてきた民医連。

すべての人の受療権を守るために活動する民医連にとって、性的マイノリティーの方々への対応も重要な課題の一つです。

今回はジェンダー学習会「誰もがかかりやすい事業所づくりを進めるために」が開催され中央病院からはWeb参加も含め50名以上が参加しました。

講師の吉田絵里子医師（川崎協同病院）からは、ご自身の経験とともにLGBTQの人の生きづらさや健康の格差が語られ、「無差別・平等の医療を目指す民医連だからこそLGBTQの課題に取り組まないといけない」と熱い思いが語られました。

参加した他事業所からLGBTQの課題に向けた職員アンケートやニュースの発行、「誰でもトイレ」の設置といった実践が語られました。

広報委員会より

病院報『KMCHつうしん』アンケートのおねがい

いつもお読みくださりありがとうございます。
さらに役立つ紙面にするため、みなさまからの声をお聞きしたく存じます。
はがき、または右記QRコードをお読み取りいただきアンケートにご協力ください。

締め切り 6月30日まで

KMCH つうしん 18 春号

編／集／後／記

暖かい（もう暑い？）春がきました。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

今年の夏の気温も西日本を中心に平年より高くなると言われています。

私は寒いより暑い方が、まだ耐えられるのですが環境のことを考えると心配になります。

少しでも省エネを意識して、こまめに電気を消す、冷蔵庫は詰め込まない、できるだけ車を使わず公共交通機関を使うか、自転車や徒歩を意識していますが、本当に微々たることだと思います。

地球温暖化の一番いい対策は二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を減らすことと言われています。

脱炭素へ国、企業が真剣に取り組むことが急がれていると思います。

（地域医療連携課　岡本陽子）

■発行責任者　広報委員会
■写真撮影　放射線技術課／大下 真

救急告示病院
京都府がん診療推進病院
厚生労働省指定基幹型臨床研修病院
中京区認知症初期集中支援事業相談窓口
ISO 9001 認証取得
卒後臨床研修評価機構認定病院
日本医療機能評価機構認定病院
京都いきいき働く医療機関 認定病院
在宅療養あんしん病院
一般財団法人 日本医療教育財団 外国人患者受入れ医療機関認証制度

入院・診察のご相談は　地域医療連携課まで

TEL 075-861-2650 専用　FAX 075-861-2544 専用

受付時間
月・水・金……8：30 ～ 19：00
火・木……8：30 ～ 16：30

京都民医連中央病院 病院報 （季刊 年4回発行）

かかりつけ医とともに　なくてはならない病院を めざして

Kyoto Miniren KMCH Chuo Hospital つうしん

受診される際には紹介状をご持参ください

18
2024 春号

特集

応援させてください！あなたのくらし

回復期リハビリテーション病棟のご紹介

耳鼻咽喉科

歯科口腔外科

UTOIMAGE／PIXTA（ピクスタ）

公益社団法人 京都保健会
京都民医連中央病院
〒616-8147　京都市右京区太秦土本町2番1
TEL 075-861-2220　FAX 075-882-5781　ホームページ http://kyoto-min-iren-c-hp.jp/

特集

回復期 リハビリテーション病棟

Comprehensive Rehabilitation Unit

＼応援させてください！／

あなたのくらし

回復期リハビリテーション病棟では、主に脳血管疾患や脊髄損傷、下肢や骨盤の骨折、または肺炎等の急性期治療を終了した患者さんがご自宅や住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるように支援しています。従来の機能訓練だけでなく、個別的、具体的、集中的にリハビリテーションを行う病棟です。

日常生活に必要な能力の向上による社会復帰を目的として医師、看護師、介護福祉士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等、多職種で連携し入院時から患者さんの退院後の生活を見据えた退院支援を行っています。

それぞれのスタッフが患者さん一人ひとりに向き合い、コミュニケーションを通して、患者さんに寄り添っていけるよう心掛けています。

回復期リハビリテーション病棟の雰囲気は明るく、患者さんやスタッフの笑顔があふれています。

回復期リハビリテーション病棟　師長　南 順子

前列の1番左が南師長

わたしたちが大切にしているもの

1 いつも患者さんが主人公

つねに患者さんの思いを大切に考え、お一人おひとりに寄り添うあたたかいリハビリをめざします。

2 チーム医療で、充実したリハビリをご提供

医師、病棟スタッフ（看護師、介護福祉士）、リハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）などが関わり、病状に合わせてリハビリテーションプログラムを作成。患者さん・ご家族をしっかりサポートします。

3 365日きれめないリハビリ体制

患者さんの早期退院を目指し、土日・祝日も含む『365日リハビリテーション』を実施しています。

特集
回復期
リハビリテーション病棟
Comprehensive Rehabilitation Unit

セラピストの紹介

その人らしく生活できるように支援していきます

回復期リハビリテーション病棟では、主に整形外科疾患、脳血管疾患等の患者さんを対象に365日切れ目のない「1日最大3時間」リハビリテーション医療を提供しています。理学療法士は**主に立位、歩行動作等の向上を目標として、様々な運動療法や物理療法を行い、患者さんに最善のリハビリテーションを提供しています。**当院では重度の筋力低下や運動麻痺等に対してロボットスーツHAL®、免荷トレーニングシステム等のリハビリテーション機器を導入し、患者さんの歩行トレーニングに活用しています。当院退院後も、患者さんが住み慣れた地域での日常生活が健康的に過ごせるよう地域と連携を図りながらセラピスト一同でサポートしていきます。

理学療法士〔PT〕
山藤（やまふじ） 健人（けんと）

食べる・入浴する・仕事をする・遊ぶ・買い物をする・料理をするなど人の日常生活に関わる全ての活動を作業と呼びます。回復期リハビリテーション病棟の作業療法では、**退院後の生活をイメージし機能や能力の改善を図ります。**当院では、電気刺激療法（低周波機器）などを使用し、その機能回復や浴槽ユニット・台所・和室を用いて生活動作へのアプローチも行っています。また、**脳梗塞後の高次脳機能障害に対するリハビリテーションも行っています。**その人らしく生活できるよう生活支援、就労支援など様々な支援に努めています。

作業療法士〔OT〕
野村（のむら） 亜衣（あい）

言語聴覚士（ST）は、**うまく話せない・わからないといった言葉の問題や、食べ物・飲み物がうまく飲み込めないといった食事の問題を専門的に援助**します。カードやドリルを利用した言語訓練、発音訓練だけでなく、実際の会話やご家族・職場とのコミュニケーションの橋渡しをすることもあります。また、必要なカロリーやその方の好みを栄養士と一緒に考えながら、入院中から退院後の食事に合わせて、訓練プログラムを考えていきます。話すことも食べることも、ひとが人らしく生きていく大切な要素です。少しでもその楽しみを感じていただけるよう、ご一緒に頑張っていきましょう。

言語聴覚士〔ST〕
尾上（おのうえ） さやか

耳鼻咽喉科
Otolaryngology【ENT】

中核病院として 地域連携の要となる 耳鼻咽喉科領域に貢献します

2023年12月より、耳鼻咽喉科に着任いたしました。

専門分野は聴覚で、これまで多くの先天性難聴や難治性難聴の内耳精密聴力検査や耳科手術、遺伝学的検査、補聴器・人工内耳治療に関わって参りました。前任の大阪赤十字病院では、当時全国一位の耳科手術件数という環境に恵まれ、中耳手術の研磨を積ませて頂き、また小児科も兼務し、新生児医療を含む様々な小児医療について学ぶことができました。大学院では、難治性感音難聴の基礎研究や内耳（注1）Drug delivery system（DDS）を利用した徐放製剤の開発を行い、聴覚再生医療、（注2）トランスレーショナルリサーチに取り組みました。診療では、かかりつけ医の先生がたと連携し、スタッフと共に、親しみやすい医療を心がけて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（注1）薬を必要最低限の量で、必要な時間、必要な場所へ、狙い通りに届ける技術
（注2）「橋渡し研究」といい主に基礎研究から見つかった将来の医療をより良くする可能性がある技術を、適切にかつ迅速に開発して有効性と安全性を検証し、患者さんのための治療、診断などに実用化するための研究のこと

聴覚医療

乳幼児・小児の難聴では、早期に聴力精密検査や遺伝学的検査を行って難聴を診断し、言葉の発達を促します。また年齢を問わず、難聴・耳鳴・聴覚情報処理障害で受診される患者さんには、個々に補聴器や人工内耳治療へつなげる診療を心がけ、言語聴覚士による聴覚・言語リハビリテーションを行います。地域医療機関や各種専門機関と連携した安心の医療を提供して参ります。難聴・めまいのご心配があれば、先ずはお気軽にご相談下さい。

佐藤宏昭科長、堀江理恵医師

耳科手術

慢性中耳炎、新球種性中耳炎に対し顕微鏡を用いた鼓室形成術、顔面神経減荷術、アブミ骨手術、内耳窓閉鎖術などの他、極細内視鏡を用いた経外耳道下耳科手術（TEES）にも対応します。

また、鼓膜穿孔に対する再生医療の日帰り手術が可能です。

遺伝医療

遺伝診療は、難聴や甲状腺髄様癌に伴う遺伝学的検査を取り扱います。2つ以上の臨床症状があるにも関わらず、診断がつかない患者さんには、IRUD（未診断疾患イニシアチブ）の連携協力病院として、さらに専門性の高い医療へつなげて参ります。

鼻科手術

鼻づまり、慢性副鼻腔炎に対し、4K3Dビデオモニター対応ナビゲーションシステムを用いた内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っています。好酸球性副鼻腔炎には、分子標的薬治療も行っております。

咽頭手術

乳幼児～大人まで、いびき・無呼吸の検査や手術が可能です。幼児からのOSAS検査・PSG検査、扁桃・アデノイド関連手術、ことばに関係する舌小帯の手術などを行っています。

ほりえ りえ
堀江 理恵

歯科口腔外科

歯科口腔外科医療に貢献します

歯科口腔外科科長　山口（やまぐち）　昭彦（あきひこ）

診療方針　病診連携や病病連携による歯科口腔外科医療を推進すること
堅実で確実、良質で低侵襲、低リスクの歯科口腔外科医療を行うこと

施設認定

日本顎関節学会顎関節症専門医研修施設
（公社）日本口腔外科学会認定「准研修施設」
歯科医師臨床研修施設（単独型）

特掲診療科の施設基準

上顎骨形成術（骨移動を伴う場合と歯科診療に係るものに限る）
下顎骨形成術（骨移動を伴う場合と歯科診療に係るものに限る）
広範囲顎骨支持型装置埋入手術

基本診療科の施設基準

地域歯科診療支援病院歯科初診料

［対象疾患］

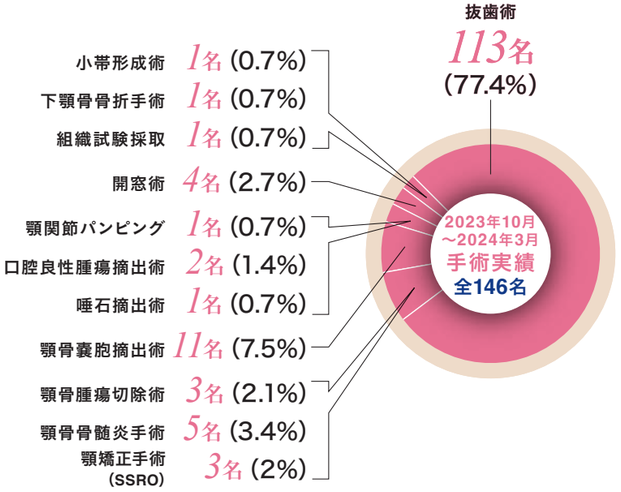
顎骨骨折を含む
口腔顎顔面領域の外傷性疾患

顎骨内あるいは口腔顎顔面領域に
発症する腫瘍性疾患や嚢胞性疾患、
顎関節疾患や唾液腺疾患、舌痛症、
口腔粘膜疾患、口腔乾燥症などの疾患

睡眠時無呼吸症候群の治療用口腔内装置の作製

ビスフォスフォネート製剤や
抗RANKL抗体製剤の投与前スクリーニングや
顎骨壊死症例に対しての診断と治療

医学的管理が必要な歯科インプラント治療



地域の歯科医療機関や医科医療機関の先生方から、当院歯科口腔外科にできるだけ多くの患者さまの御紹介を頂きますよう、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

●当科は紹介外来のため紹介状が必要です。完全予約制ですので詳しくはホームページをご覧ください。

25

よねざわ歯科医院

歯科

よねざわ　たけし
米沢　武
院長

地域の皆さまの笑顔と健康を守り続けたい

なぜ、医師になろうと思われましたか？

私は生まれ持って歯の質が弱く、幼い頃から治療を受けて助けられたので、そのお返しがしたくて歯科医師になりました。

貴院の特徴を教えてください

平成13年に開院して以来、地域のかかりつけ医としてお子さまからご高齢の方まで多くの方々のお口の健康に携わってまいりました。「地域の皆さまの笑顔と健康を守り続けたい」をモットーに、安心して通っていただける歯科医院を目指して頑張っております。

歯科治療に関わる地域連携についてご意見をお聞かせください

一般歯科開業医と病院歯科とが、それぞれの役割を担い、お互いに連携を取り合うことで、安心・安全な地域医療が確立できると考えます。

京都民医連中央病院に対しての希望、要望をお願いします

京都民医連中央病院は右京区で唯一の歯科口腔外科のある病院ですので、右京歯科医師会とも連携しながら歯科医療の中核として地域を支えていただきたいです。

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00–12:30	●	●	●	●	●	●
午後 15:00–19:30	●	●	×	●	●	×

〒 616-8305
京都府京都市右京区
嵯峨広沢御所ノ内町43-41

TEL.075・864・8714
https://yonezawa-shika.jp/

休診日　水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

うきょう地域探訪 vol.5

太秦・ひょっとこ踊りの会

日本一の
ひょっとこ踊りで
地域に笑顔と健康！

寺社での五穀豊穣や商店街での商売繁盛を祈る奉納踊りや福祉施設での慰問と地域を元気にをコンセプトに活躍されている太秦・ひょっとこ踊りの会の皆さんの紹介です。これも地域連携の姿。先日取材の折に、練習に参加。キレッキレの踊りをまねて、とても心地よい汗かいてきましたよ。みなさんもいかがですか。（地域医療連携課　大山 潔）

こんにちは！私たちは、太秦・ひょっとこ踊りの会です。

太秦・ひょっとこ踊りの会は、2015年に発足しました。多様な年代のメンバーが毎月集まってお稽古をし、市内はじめさまざまなイベントやお祭り、福祉施設などで「ひょっとこ踊り」を披露する活動をしています。昨年の8月、私たちは、ひょっとこ踊りの本場である宮崎県日向市で行われた「第40回日向・ひょっとこ夏祭り」に参加し、全国から60チーム以上、約1100人以上の踊り手が集まった大会で、個人・団体ともに優勝、京都に日本一をもたらし、喜んでいただくことができました。日頃応援いただいている地域の皆様のおかげで、ここまで活動することができました。

ひょっとこ踊りは、老若男女誰でも気軽にはじめることができます。ユーモラスなお面と、「テンテコテン」の愉快なリズム、軽快な踊りで、人々を笑顔にすることができる楽しい文化だと考えています。お面をつけているので、恥ずかしくもありません！

ひょっとこ踊りは、体も動かすことができ、見る人も幸せにすることができる、地域に健康をもたらす踊りでもあります。ひょっとこ踊りを通じて、笑顔と健康が地域に広がってほしい、それが私たちの願いです。

現在、メンバーやご依頼も募集中！活動の情報も発信していますので、ぜひご覧ください！

お稽古は毎月第2・第4土曜・第4火曜 19時～21時
場所：京都市右京区太秦堀ヶ内町30-43
三条大映フロントビル3階

活動記録とお知らせは、
YouTubeとFacebookで
【太秦・ひょっとこ踊りの会】
をご検索ください！

お問い合わせ：
uzumasahyottoko@gmail.com（代表 増田）

太秦・ひょっとこ踊りの会 代表 // 増田（ますだ） 優太郎（ゆうたろう）

部署紹介

安全で質の高い医療に貢献しています

（後列中央が下川課長、前列右から2人目が荒尾課長）

Section 8 ＼こんにちは／ 診療情報企画課です

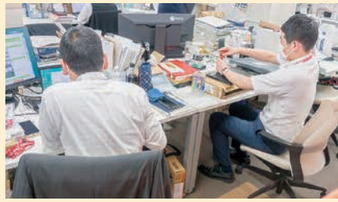
診療情報企画課 課長　下川（しもがわ） 忠弘（ただひろ）　荒尾（あらお） あかね

診療情報企画課は、「診療情報管理」と「情報システム管理」の2つの役割を担い、医療に関する情報を管理する部門です。診療情報管理は、患者さまが受けられた検査や治療が適切に記録されているかの確認や、日々の医療活動で得られる情報から統計資料などを作成しています。また、公的機関へ提出するデータの作成、患者さまなどからの診療情報の開示依頼への対応を行っています。スキャンセンターを併設しており、書類の電子保存や病歴資料の管理も行っています。

情報システム管理では、電子カルテなど情報システムの導入・運用・保守管理業務を行っています。現場のニーズを把握し機能を改善しながら、職員からの問い合わせ対応、薬品等のマスター登録などを行っています。職員の業務を情報システムの面からサポートすることで、診療を円滑に行える様に日々対応しています。

このように、院内では“縁の下の力持ち”的な存在ですが、「診療情報管理士」と「医療情報技師」という資格に裏付けられたスキルをもって、安全で質の高い医療に貢献しています。

診療情報管理



情報システム管理

京都民医連中央病院
倫理委員会
議｜事｜概｜要

議事概要／／／ 2024年1月4日（木）18:30から20:18まで、第112回倫理委員会を開催いたしました、倫理委員会では、事例検討、治験審査委員会報告、臨床研究倫理審査状況等について議論しました。議事録につきましては、111回までを病院のホームページ上で公開しています。